学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	家庭科	献立のことならまかせてね！	令和５年 10 月 13 日（金）６校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【思いや願いをもって課題を設定するための手立て】** 本題材は、「ご飯は美味しく食べたい」という子どもの本音を基にしながら、栄養バランスという視点を加えていくことで、問題を自分事として捉えながら課題を設定することができるようにする。 本時では、事前に調査した、家族の食事の特徴について共有し、人によって食事のとり方は違うということを意識させることで、「〇〇（誰）のために～な献立にしたい」と相手意識を明確にしながら課題を設定することができるようにする。
研究内容２の手立て	**【自分や家族にとっての生活事象の意味を明らかにするための手立て】** 本題材では、子どもが献立を立てることの意味について考えられるようにするために、第１時で理想の献立を立てさせる。その際は、自分の好きなものばかりを並べた献立を立てることが予想される。そこには、「美味しく食べるため」という意味がある。その後、家族に合った献立を追究することで、「栄養」「笑顔」「時短」等の意味が加わる姿を期待する。本時では、家族のための献立とこだわりポイントを共有し、考えを広げた後に献立の見直しを行うことで、家族に合った献立を吟味することができるようにする。

○　子どもの姿からの報告

導入

研究内容１：事前に調査した、家族の食事の特徴について共有し、課題を設定する。

私の兄は、野菜が苦手だから食べてなかったよ。野菜ももっと食べてほしいな。

私の妹も野菜が苦手みたい。

家族に合った献立を立てる前に、事前に家族の食事の特徴について調査させることで、家族の苦手な食材や好きなものに目を向け、「お兄ちゃんもおいしく楽しく食べられる、野菜盛りだくさんの献立になるように工夫しよう。」という課題を設定することができた。相手意識を明確にしたことで、思いを高めることができた。

展開

研究内容２：自分に合った方法で課題解決（自分の家族に合った献立の決定）に向かう。

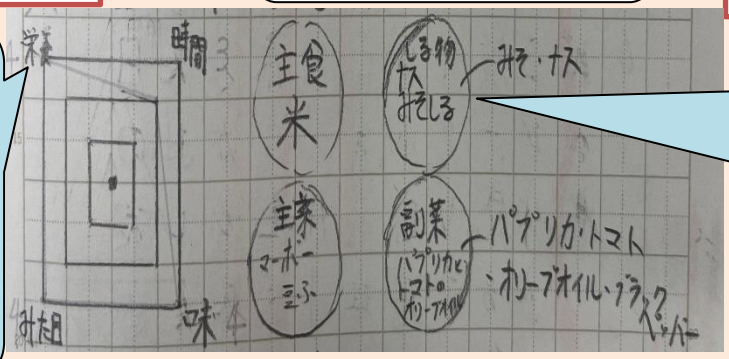
栄養分類表の活用

我が家は、野菜をたくさん使うことで栄養バランスが整うな。

本の活用

家族みんなが楽しくなるようなメニューにしたいな。本で調べてみよう。

これまでの学びから、栄養、時間、見た目、味等の大切さに気付き、何にどのくらい重きを置くのかについて、自ら考えている姿。



味噌汁が好きで、ナスが苦手な妹に対して、味噌汁の具材にナスを入れて、食べられるように工夫している姿。

【写真】A 児の立てた献立

研究内容２：献立のこだわりポイントを共有し、考えを広げる。

終末

私はおじいちゃんと一緒に住んでいるから、野菜を多めにして、食べやすい大きさにするよ。

僕の家族は、塾やお仕事でなかなかゆっくり料理する時間がないから、「時短」を大切にしたよ。

○　考察

○　思いをもたせるために相手意識の対象を「家族」としたが、複数人となると対象が広くなりすぎたため、学びに深まりがなかった。対象をより絞る必要があった。例えば、家族のなかの妹とすることで、学びがより深まったのではないか。

○　子どもは、「好み」「彩」等のこだわりポイントをたくさんもっていた。しかし、本題材で考えを深めていくべきポイントは「栄養」であった。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

栄養のバランスを大切にしながら、自分の家族に合った献立を立てることができる。

○　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　家族の食事の好みについて調査してきたことを基に話し合い、本時のめあてを設定する。 ○　家族の食事の好み ・「父は魚が好きで、トマトが苦手。」 ・「わたしの妹は、野菜が苦手でいつもよけて食べているな。」　等 ○　本時のめあて 自分の家族に合った献立を立てよう。	○　事前に調査した、家族の食事の特徴について共有し、食の好みは人によって違うということに気付かせることで、自分の家族に合った献立を立てたいという思いをもつことができるようにする。 ○　「妹は野菜が苦手で食べない。」という発言に対して、「どうしたいですか。」と問い返し、「野菜をたっぷり、美味しく食べてほしい。」という思いを引き出すことで、課題を設定することができるようにする。
2　自分の家族に合った課題を設定し、栄養のバランスや、好み等のこだわりを大切にしながら献立を立てる。（★） ○　自分の家族に合った課題設定 ・「妹が野菜もとれて、笑顔になれる夜ご飯」 ・「栄養たっぷり楽しくなれるスペシャルご飯」　等	○　献立を立てる際に、学習プリント・タブレット型端末・ノートから子どもがまとめやすい学習用具を選択させることで、自分に合った方法で取り組むことができるようにする。
○　献立作成 ・献立決定 ・食品分類表記入 ・献立を立てるときのこだわりポイント ・調理計画	○　献立を立てる際に、料理に関する本や、これまでの学校給食の献立等を掲示しておくことで、子どもが自分の課題解決に向けて必要な学習用具を選択することができるようにする。
3　困っていることを共有する。 ○　困っていることの共有 ・「メニューが決まらない。」 ・「副菜とする物は両方必要なのか迷っている。」	○　献立作成の途中で、困る子どもがいた場合には、困っていることについて共有し、アドバイスし合う場を設けることで、学習用具を変更したり、メニューの決め方を変えたりすることができるようにする。
4　決定した献立とこだわりポイントについて仲間と共有し、献立を見直す。 ○　献立の見直し	○　本時では、家族のための献立とこだわりポイントを共有し、考えを広げた後に献立の見直しを行うことで、家族に合った献立を吟味することができるようにする。
5　本時のふりかえりを行う。 ○　ふりかえり 〈内容〉 ・「私の妹は野菜が苦手だから、野菜たっぷりハンバーグを作ります。好きなハンバーグの中に野菜をたくさん入れておくことで、笑顔で食べられると思います。特に、人参のような根菜は小さく切って食感が残らないようにしたいです。」 〈学び方〉 ・「今日は、本を参考にしたことで、野菜たっぷりハンバーグを思いつくことができました。食品分類表を活用して、栄養のバランスも整えることができました。」	○　内容のふりかえりだけではなく、学び方のふりかえりを行うことで、これからの自分に合った学び方について考えることができるようにする。

○　本時の評価規準

栄養のバランスを大切にしながらも、家族の好みや苦手な食材の取り入れ方、彩等にも目を向け、自分の家族に合った献立を立てている。　（思考・判断・表現）【記述分析】